

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[50]歳、勤続年数[32]年、現場経験年数[31]年、階級[消防士長]、同様の活動 [初めて]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[59]歳、勤続年数[35]年、現場経験年数[30]年、階級[消防士長]、同様の活動 [初めて]、任務 [機関員]
○当事者C	年齢[21]歳、勤続年数[2]年、現場経験年数[1]年、階級[消防士]、同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者ABC	出場指令を受け現場へ出場した。	
経過2	当事者B	信号交差点直進時、信号機の確認と交差点の車両確認を怠った。	出場途上中 (現場到着前)
経過3	当事者A	救急現場を地図上で確認中、信号機の確認と交差点の車両確認を怠った。	出場途上中 (現場到着前)
経過4	当事者C	後部にて携行資機材の確認を行っていた。	出場途上中 (現場到着前)
経過5	当事者ABC	普通乗用車と接触した。	事故発生
経過6	当事者A	警察及び指令課連絡(応援隊要請)をした。	
経過7	当事者BC	相手方の怪我、事故状況等の確認をした。	
経過8	当事者AC	事故現場から災害現場まで近いため、当事者B及び車両を事故現場に残し、災害現場へ向かった。	
経過9	当事者AC	傷病者の観察を実施後、後着救急隊に引き継ぎ事故現場へ戻った。	
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?
ヒヤリハットの場合: ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか?

集中力、注意力があった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

安全管理の資料を使い研修を行った。
地水利試験等を行い、管内情勢の把握に努めた。
職員に対して、走行時の安全運転呼称の再徹底を図った。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

事故状況図

